

# 埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7  
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>  
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 年頭挨拶

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会  
会長 神山 清志



新年明けましておめでとうございます。

会員・賛助会員の皆さまにおかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は当会に対し多大なるご支援、ご協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

さて、昨年は、大阪北部地震、北海道胆振東部地震、西日本の豪雨、記録的猛暑や大型台風の連続上陸など大規模な災害が各地で相次ぎました。その反面、平昌五輪における“そだねージャパン”（カーリング女子）の活躍、藤井聡太棋士（将棋）の史上最年少での七段昇段ならびに100勝到達、本庶佑博士のノーベル医学生理学賞の受賞等の明るい話題もありました。

私たち臨床検査技師の領域に関しましては、医療法等の一部を改正する法律の一部施行に伴う厚生労働省関係令整備に関する省令が平成30年7月27日に公布され、12月1日より施行されました。これには、病院等において検体検査を行う場合の精度の確保に係る基準、検体検査の受託者における検体検査の精度の確保に係る基準、検体検査の分類、衛生検査所の登録基準等に関する規定等が盛り込まれており、特に病院・診療所で検体検査を行う場合は検査室の有無にかかわらず精度管理責任者（医師もしくは臨床検査技師）を配置し、標準作業書、試薬管理台帳等の書類を完備することになりました。これに伴い医療監視におけるチェック事項も増えることから各施設において作業が増加するといった負担も発生してきます。しかし、検査の質は臨床検査技師が担保するといった観点からも重要な改正であり、最終的には医療の恩恵を受ける患者さんに検査過誤等の不利益を与えないためにも大切なことと考えます。当会としても日臨技と連携を図りながら各施設における疑問点等について迅速に対応できるよう調整を図る所存です。

今年の干支は猪です。猪というどのようなイメージをお持ちですか？最近では住宅街に出没して人に危害を加えたり、農作物を荒らしたりと正直申して有り難いイメージは無いと思います。しかし、これって猪が悪いのでしょうか？伐採や宅地開発で、従来の野生動物の住処を人間の住処に変えた結果ではないのでしょうか？人のための自然環境の破壊は生態系を脅かし、実はミクロの世界まで異変を起こさせています。農薬で駆除できない害虫や化学環境に順応した微生物など私たちの脅威になる原因は私たちにあるのかもしれない。猪突猛進！猪のイメージであり、四字熟語でも有名ですね。研究促進や実験成果を焦る気持ちは解りますが周りを見ないで突っ走ると患者に迷惑をかけてしまいます。職場でも技師会でも、何かを言うとき、行うときは一呼吸置いて冷静に判断したいものです（自戒です）。

さいごに、執行部一同、本年も会員、賛助会員、地域のための技師会であるよう努力してまいりますので、さらなるご指導、ご鞭撻を賜りたく存じます。

本年もよろしく願い申し上げます。

## 第46回埼玉県医学検査学会を終えて

第46回埼玉県医学検査学会 学会長 鈴木 英之

2018年12月2日(日)大宮ソニックシティにて第46回埼玉県医学検査学会を開催致しました。昨年は関甲信支部学会が埼玉県で開催された関係で2年振りとなりましたが、一般市民の参加を含め1374名と大変多くの皆様に参加頂き盛会に終わることができました。心より御礼申し上げます。

今学会のテーマについては、近年AI技術の発達、質量分析・遺伝子分野の発展、チーム医療への更なる参入、検査室における品質管理、医療法改正による業務拡大など臨床検査技師を取り巻く環境が急速に変わり各施設の対応が問われ、その変わる時代に取り組む道標になるよう扉を開けて一步前へ踏み出す意味を込めて『拓く』としました。そしてサブテーマは～手を広げ、見て、聞いて、知って、覚えて、繋がって～と、それぞれのテーマに沿った学会企画に各分野のエキスパートの講師の皆様にご講演をお願いし、一步前に踏み出すヒントを与えていただきました。

市民公開講演では、これからの超高齢化社会問題を前学会の認知症講演に引き続き取り上げ、日本成人病予防協会の安村禮子先生をお招きして『ぼける生き方、ぼけない生き方』と題して生活改善、健康管理について講演を行っていただきました。当日は何人くらいの方に来ていただけるのか非常に不安でしたが、ホワイエでの体験コーナーの血管年齢測定、物忘れの簡易検査では開始予定時刻前からお待ちいただき、小ホールには一般市民の方の200名を超える入場者を数えました。講演後には会場から時間が足りなくなるほど多くの質問もあり、これからの高齢化社会における介護、認知症問題への関心の高さを感じました。学会最後の癒し企画ではインマヌエルゴスペルクワイアの皆様による爽やかな歌声を披露していただき、会場一体となって手を振り拍手しながらの合唱と参加された皆様の海馬も刺激され、とても充実した内容となったのではと思います。

今回は企画の段階においても、長岡実行委員長、永井学術部長、木暮運営部長を中心に今までの既定路線にとらわれず、テーマの『拓く』に沿って様々なアイデアと工夫を凝らして実行委員の負担軽減を目指し、特集号製本作成に従来費やしていた修正時間の軽減、Web抄録の新たな試み、発表スライドの受付を記録媒体の郵送からメール送信に変更など、今までにないやり方で進めて参りました。また当日は県学会初の書店の出店や各会場では椅子のみの配置で後から入って来た人も着席しやすくし、ネームホルダーの回収撤廃により撤収作業もスムーズに行うこともできました。その結果として全てにおいて十分な成果を得ることができ、煩雑な作業等が減り実行委員の実務もかなり軽減され、今後に繋がる一步を踏み出せたのではと思っています。

最後になりますが、学会の開催にあたり、神山会長はじめ技師会理事、諸先輩の皆様、演題発表された埼臨技会員、座長の皆様、賛助会員各社、各研究班、実務委員、技師会事務員、学生関係各位の多くの皆様にご支援、ご協力をいただき心から感謝申し上げます。そして実行委員の皆様におかれましては1年もの長い間支えていただき、素晴らしい方々と一緒に学会を開催できたことを誇りに思います。本当にありがとうございました。



## 第47回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：2019年12月1日(日)

会 場：大宮ソニックシティ

テーマ：『飛 翔』

第47回埼玉県医学検査学会  
学会長 来住野 修



この度第47回埼玉県医学検査学会の学会長を務めさせていただくことになりました、埼玉医科大学保健医療学部臨床検査学科の来住野 修と申します。

今回選出された実行委員は比較的若い方が多く、昨年11月の第1回実行委員会の席では、さまざまな意見が出されて活発な会議となりました。現時点では日程、会場およびテーマが決定したところですが、検査技師の世界も技術の進歩は当然ながら、医療を取り巻く考え方も年々変化してきております。責任が重くなる一方で遣り甲斐も大きくなってきています。

前回の学会テーマが『拓く』で、扉を開いて一步踏み出しましたので、新年号に代わる本年は、新たに始まる元号のごとく飛び立とうというテーマ『飛翔』としました。今までのところ実行委員会の中では、①学生および新人の方からベテランの方々まで参加していただける内容にしたい、②次世代への継承を、③教育の面では、学生や新人だけでなく新しい分野に挑む中堅やベテラン向けにもなる講演や講習を行っては？④県内から多くの方々が集まる良い機会ですので、交流のできるスペースを確保したい、⑤勉強したい、情報が欲しいなどの要望をできる限り実現したい、との意見が出ています。

どこまで実現できるかは、これからの実行委員の働きにもよりますが、会員の皆様のご協力、ご意見をいただくことでより良い学会が開催できると考えております。たくさんの皆様の巻き込んで、有意義な学会にしたいと考えておりますので、よろしくごお願い申し上げます。

### 第47回 埼玉県医学検査学会実行委員

役 職	氏 名	勤 務 先
学会長	来住野 修	埼玉医科大学保健医療学部
実行委員長	奈良 豊	埼玉医科大学総合医療センター
事務局長	内田 康子	埼玉医科大学保健医療学部
事務局	大村 一之	埼玉医科大学保健医療学部
事務局	阿部 慶子	埼玉医科大学病院
会計部長	小棚 雅寛	埼玉医科大学病院
会計	青木 政典	埼玉医科大学国際医療センター
学術部長	山本 英俊	株式会社ビー・エム・エル総合研究所
学術	室谷 明子	埼玉医科大学国際医療センター
学術	藤本 丈志	株式会社ビー・エム・エル総合研究所
学術	中山 智史	防衛医科大学校病院
学術	鈴田 和樹	東松山市民病院
運営部長	北川 裕太郎	埼玉医科大学病院
運営	新 秀明	株式会社ビー・エム・エル総合研究所
運営	伊藤 佳世	防衛医科大学校病院
運営	鈴木 翔子	東松山医師会病院
運営	大塚 麻実子	社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院
運営	大出 淳	埼玉医科大学総合医療センター
学会担当理事	菊池 裕子	医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院

## 深谷市福祉健康まつりに参加して

前号に掲載予定の2名の会員様の感想文が、編集の不幸により、寄稿いただいたにもかかわらず掲載漏れとなっていることが判明致しました。今号に掲載させていただくとともに、ご迷惑をおかけしました会員様および関係者の皆様にお詫びいたします。



熊谷総合病院 北 奈緒美

10月27日に行われた第13回深谷市福祉健康まつりに初めて参加させていただき、血管年齢測定を行いました。当日は開始時間前から検査を待つ方々がいる状態で始まり、市民の皆様の健康に対する意識の高さを実感しました。

多くの方が並んでいただいている中で、速やかに検査を行うだけでなく質問されたことにわかりやすく的確に説明することの難しさを感じました。今回の検査結果を今後の生活習慣の改善に生かしていただけるように、限られた時間の中で一人一人の背景に沿った説明を心がけて検査を行うことが重要だと感じました。

今回のように近隣の他施設の方と交流する機会をいただけたことも貴重な経験になり、今回の活動を通して学んだ事を今後の業務に生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。



深谷赤十字病院 中島 舞

10月27日に深谷市ビクタートルで行われた、第13回深谷市福祉健康まつりに実務委員として参加させていただきました。当日は、ご来場いただいた方々への血管年齢測定を行い、たくさんの地域の方々とお話することができました。

血管年齢測定の検査を行うのは今回が初めてで、最初は機械の使い方や検査を受けた方々への説明に不安を感じていましたが、埼臨技の理事の皆様にご指導いただきながら、次第にスムーズに検査を進めることができました。

600名を超える方々にご参加いただき、皆さんが健康に対して常に意識を向けて運動や食生活に気を遣っている、というお話を伺い、私自身も健康への関心が更に高まりました。

今回の福祉健康まつりを通して、様々な年代の方々とお話をし、また、一緒に参加させていただいた他施設の方々と交流を深める事ができ、非常に有意義な1日を過ごすことができました。このような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

## 求人案内

○一般社団法人 大宮医師会メディカルセンター

採用条件：その他（非常勤職員）  
連絡先：048-665-6559

○医療法人 菊一会 鶴ヶ島池ノ台病院

採用条件：正職員  
連絡先：049-287-2288 総務 石井

○社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス  
東埼玉総合病院

採用条件：正職員  
連絡先：0480-40-1311 総務課 採用担当

○埼玉県立小児医療センター

採用条件：その他（非常勤職員、育児休業代替職員）  
連絡先：048-601-2200 内線2911  
事務局／総務職員担当 星野、藤平

○一般社団法人 浦和医師会メディカルセンター

採用条件：臨時職員（パート）  
連絡先：048-824-1629 鈴木

○医療法人 藤和会 藤間病院

採用条件：正職員  
連絡先：048-522-0600 総務課 人事担当

○医療法人社団 嬉泉会 春日部嬉泉病院

採用条件：正職員  
連絡先：048-736-0111 人事部 望月

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある  
連絡先にてご確認をお願いいたします。

## 「第21回秩父臨床化学セミナー～秋季1泊研修会～」開催される

11月10日(土)～11月11日(日)にかけて第21回秩父臨床化学セミナーが開催され、60名の参加がありました。秩父の素晴らしい自然のなか、チーム医療に必要な知識や12月から施行される医療法改正についての講義を受け、ナイトセミナーではデータの見方・考え方について活発な意見が出ました。日頃の疑問を聞く事もでき、有意義な時間となりました。

(医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院 松本さゆり)



上尾中央医科グループ 上尾中央臨床検査研究所  
大西 朋花

今回、私は1泊2日の秩父臨床化学セミナーに参加させていただきました。1日目は輸液、NST、周術期の血糖管理の重要性について聴講しました。普段仕事では経験しないような内容で、視野が広がりました。ナイトセミナーでは、透析患者の検査データの見方について聴講し、症例検討によってさらに実践するイメージが湧きました。2日目は12月施行の医療法等の制度改正について聴講し、測定標準作業書等の作成・運用について学びました。また、なぜ医療法を改正する必要があるのかについて聴講し、さらに理解を深めることができました。懇親会を通して同年代の検査技師の方々と交流でき、横のつながりを広げられて充実したセミナーになりました。今後の業務にも役立てていきたいと思ひます。



埼玉医科大学国際医療センター 久保 嘉志

今回のセミナーを通じて、栄養サポートチームに必要な輸液の知識や栄養アセスメントに用いられるrapid turnover protein (RTP)の確認、週術期における血糖管理の重要性を改めて学ぶことができました。また、当院ではISO15189取得に向けて日々前進しているのですが、まだまだ不明な点や心配な点がたくさんあります。セミナーで、医療法等の改正点を詳しく解説していただき、実際にISO15189を取得している施設の方の測定標準作業書、作業日誌の作成のポイントなどの話を聞くことができ、大変勉強になりました。機会がありましたらまた参加させていただきたいと思ひます。本当にありがとうございました。



上尾中央医科グループ 白岡中央総合病院  
梅田 智希

今回、21年の歴史をもつ秩父セミナーに参加させていただき、とても充実した2日間を過ごすことができました。1日目は3つの講演とナイトセミナーに参加させていただき、様々な症例のデータの考え方について学ぶことができました。2日目では測定標準作業書作成の利点及び効果、作成例について学ぶことができ、とても参考にさせていただきたい内容でした。また他施設の方々と交流ができ、横の繋がりを深めることができ良かったです。今後もこのような機会があればぜひ参加させていただきたいと思ひます。

## 各研究班の研修会報告を致します。

### テーマ カフェイン中毒について

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：平成30年11月9日 19時00分～21時00分

会場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科ー20点

講師：上條 吉人(埼玉医科大学病院救急センター・中毒センター)

参加人数：会員31名

出席した研究班班員：富井貴之 立塚梓 石井孟 鈴木智子 吉田翔平 穴原賢治

研修内容・感想など

今回は上條氏に講師をお願いし、救急の現場、特に中毒に関して専門であることから最近の話題となったカフェイン中毒を中心に講演をしていただいた。カフェインはキサンチンの誘導

体で、臨床的に似た薬剤としてテオフィリンがあり治療係数や有効係数、致死量数などの内容や主な目的としての徐放剤として使用されていることを説明された。中毒症状の現れやすい主な臓器は脳、心臓、腎臓、骨格筋等が影響を受けやすく、その時の検査データや患者の中毒症状の具体的な説明をされた。症状の中でも痙攣の重積発作が現れた時は最悪、死に至る話は衝撃を受けた。中毒患者の処置・対処については、最近の救急対応として透析の有効活用を述べられた。以前の胃洗浄処置では他のリスクが伴う事と患者さんの回復に時間がかかることが理由で現在は行われておらず、透析や活性炭を使用することで体内の毒素を早く取り除くことが可能である説明はとても興味を持てた内容であった。また、最近のカフェイン剤が購入できる環境（ネット通販）についても警鐘を鳴らされた。ネット購入では安価で大量に手に入る環境が、このような中毒患者が出てきてしまう事を述べられた。カフェイン中毒死に関してのマスコミ報道の仕方についても取り上げられた。私たちはマスコミ情報だけを信じるのではなく、中毒に関する正しい知識を持つことの大切さを改めて感じられた研修会であった。

(文責：穴原賢治)

## テーマ 銀増幅イムノクロマトグラフィー法を用いた診断システムについて

主催 血清検査研究班

実施日時：平成30年11月29日 19時00分～20時00分

会場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科ー20点

講師：野中 翔平 (株式会社ミズホメディイ)

参加人数：会員22名 賛助会員1名

出席した研究班班員：鈴木淳子 鯨井智子 中別府奈穂子 天野直樹 多川裕介 岩崎篤史 庄司和春

### 研修内容・感想など

今回の講演は、野中氏による銀増幅イムノクロマトグラフィー法を用いた診断システムについてであった。このテーマでは、ちょうど3年前に同社による講演が行われているが、今回はインフルエンザのみならず、マイコプラズマ抗原およびRSVについても高感度法が発売されたとのことでこれらの説明があった。通常のイムノクロマト法は、金コロイドに固相された抗体と判定ライン上の抗体が抗原をサンドイッチすることのより、金コロイドのピンクのラインが出現する。しかし、抗原量が不十分だと目に見えるラインが出現せず、陰性と判定されてしまう。高感度法では、写真技術を利用して高感度化を実現している。銀溶液を加えることにより金イオンに銀粒子が吸着され、結果的に元の約100倍の大きさの粒子になることで検出しやすくなり、従来の10倍以上の感度である、とのことであった。ラインの読み取りも機械が行うため読み落としの心配もなく、オンラインすることも可能であり入力ミスも防ぐことができる。高感度化により懸念されるのが非特異反応であるが、このキットに用いられている抗体は検査に不要なFc部分を酵素処理により切断・除去してあるため、非特異反応は低減しているとのことであった。この測定法が普及すれば、早期診断・早期投薬が可能となり、結果的にインフルエンザの流行阻止の一助となると期待できる。

(文責：庄司和春)

## テーマ 中村流、耐感トレーニング！ ～薬剤感受性の基礎と話題の耐性菌～

主催 微生物検査研究班

実施日時：平成30年11月30日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 603号室 点数：専門教科ー20点

講師：中村 竜也 (京都橘大学)

協賛：日水製薬株式会社

参加人数：会員88名 賛助会員9名 関連団体1名

出席した研究班班員：渡辺典之 牧俊一 酒井利育 森圭介 小棚雅寛 今井英美 千葉明日香

### 研修内容・感想など

今回は、薬剤感受性の基礎と話題の耐性菌というテーマで、中村氏にご講演いただいた。内容は、テーマの通り抗菌薬の構造式など基本的な説明から始まり、グラム陰性桿菌を中心に耐性機序の解説をしていただいた。

耐性菌機序は、①β-ラクタマーゼ②外膜蛋白質とポーリン孔③PBP変異の3つに大別して説明していただいた。この中で最も理解に苦しむ外膜蛋白質とポーリン孔の関係についても分かりやすい図を用いて詳細に解説していただいた。ポーリンが欠損した場合の各抗菌薬のMIC値の変動を具体的に示して、その理由が最初に解説された抗菌薬の構造が影響していることを学んだ。苦手だったため避けていた構造式も学ぶ必要性を再認識した。さらにβ-ラクタマーゼの説明では、抗菌薬が作用する部位ならびに阻害剤を含めた解説を野球のグローブを例に出してわかりやすく説明していただいた。会場に置いてあるホワイトボードを使用して少しでも参加者が理解できるように解説しようとする中村氏の熱意溢れる講演であったため1時間30分があつという間であった。

中村氏が強調されていたのは、われわれが臨床に報告する薬剤感受性結果の“感受性”という結果は必ず抗菌薬が効く＝治療薬として使えるということ。つまりは、われわれが実際に測定しているin vitroの結果から構造的な特徴より抗菌薬がどのような薬物動態を示し、実際に使用できる投与量や最終的に治療可能か否かまで考えることが臨床検査技師の仕事だと認識した。

(文責：小棚雅寛)

平成30年度  
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会  
第10回 理事会議事録  
(みなし決議に関する理事会議事録)

議案書発送日：平成30年12月12日(水) 15時00分  
議 決 日：平成30年12月18日(火) 17時00分  
議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項  
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

参 加：(理事) 神山 岡田 矢作 松岡 小山  
濱本 山口 猪浦 鳥山 阿部  
奈良 長岡 小島 神嶋 菊池  
長澤 伊藤 濱田 笹野 石井  
神戸 (理事全員)  
(監事) 細谷 遠藤 (監事全員)

### Ⅰ. 行動報告 (平成30年11月8日～平成30年12月13日)

11月8日(木)平成30年度第9回理事会：  
神山、岡田、松岡、小山、濱本、  
奈良、長岡、小島、伊藤、菊池、  
長澤、神嶋、濱田、笹野、石井、  
神戸、山口、猪浦、鳥山、阿部、  
遠藤

11月8日(木)会計入力作業：神戸

11月9日(金)全国検査と健康展埼玉会場  
前日準備：濱田、長澤

11月10日(土)全国検査と健康展埼玉会場：  
神山、岡田、矢作、濱本、長岡、  
小島、濱田、笹野、石井、遠藤、  
長澤

11月10日(土)秩父臨床化学セミナー：神山

11月11日(日)全国検査と健康展埼玉会場  
片付け：濱田、長澤

11月11日(日)会計入力作業：神戸

11月13日(火)第2回検査室管理運営委員会：  
神山、矢作、濱田、笹野、長澤

11月16日(土)日臨技支部長会議：神山

11月16日(金)事業部メール会議：  
矢作、伊藤、濱田、笹野、長澤

11月16日(金)第46回埼玉県医学検査学会第13回  
実行委員会：長岡、神嶋、菊池

11月17日(日)日臨技理事会：神山

11月17日(日)看護協会医療安全大会：神山

11月19日(月)第47回埼玉県医学検査学会第1回  
実行委員会：神山、奈良、菊池

12月1日(土)第46回埼玉県医学検査学会  
事前準備：長岡、神嶋、菊池

12月2日(日)第46回埼玉県医学検査学会：  
神山、岡田、矢作、松岡、小山、  
濱本、奈良、長岡、伊藤、菊池、  
長澤、神嶋、濱田、笹野、石井、  
神戸、山口、猪浦、鳥山、阿部、  
遠藤

12月7日(金)日臨技診療報酬対策委員会：神山

12月7日(金)日臨技予算委員会：神山

12月8日(土)日臨技定款諸規定変更委員会：  
神山

12月10日(月)予算委員会：  
神山、岡田、矢作、松岡、小山、  
長澤、山口、猪浦、石井、神戸、  
阿部

### Ⅱ. 報告事項

#### 1 事務局

- 1) 埼玉県医師会より第29回埼玉県大腸がん検診セミナーの後援依頼があった。
- 2) 栃木県臨床検査技師会より平成30年度日臨技初級・職能開発講習会開催通知があった。
- 3) 群馬県臨床検査技師会より日臨技首都圏支部・間甲信支部医学検査学会の礼状が届いた。
- 4) 日臨技より衛生検査所指導要領について通知があった。
- 5) 第68回日本医学検査学会より一般演題登録の依頼があった。
- 6) 11月17日(土)第12回埼玉医療安全大会に神山会長が出席した。
- 7) 他職種連携医療専門職育成プログラム平成30年度筑波大学・茨城県立医療大学合同公開講座の案内が届いた。
- 8) 平成31年公益社団法人埼玉県看護協会新年懇談会の案内が届いた。神山会長派遣予定。
- 9) 日本衛生検査所協会関東甲信越支部平成31年賀詞交歓会の案内が届いた。神山会長派遣予定。
- 10) 日臨技より医療法等の一部を改定する法律並びに関係省令が12月1日から施行されることに伴い、関係通知の整備かなされ、自治体宛通知した旨、連絡があった。
- 11) 平成31年度定時会員総会の開催は、平成31年6月13日(木)大宮ソニックシティ906号室にて開催することとした。
- 12) 黒住財団より福見秀雄賞・小島三郎賞の推薦依頼があった。
- 13) 埼玉県医療整備課より2019年秋の叙勲及び褒章候補者の推薦依頼があった。
- 14) 当会元事務員浅香邦子氏が逝去した。当会慶弔規定を適用した。

#### 2 総務部

- 1) 「埼臨技だより」第475号、12月15日発行予定

#### 3 事業部

- 1) 11月10日(土)全国検査と健康展 埼玉会場が開催された。
- 2) 11月13日(火)第2回検査室管理運営委員会を開催した。
- 3) 11月16日(金)事業部メール会議を開催した。

#### 4 学術部

- 1) 埼臨技会誌 Vol65 No2 2018 12月15日発行予定。
- 2) 2, 3月生涯教育プログラム発行 12月15日発行予定。

- 3) 地区別研修会を、東部地区平成31年年 3月 2日(土)に獨協医科大学埼玉医療センター、北部地区平成31年 2月16日(土)に熊谷総合病院で開催予定。
- 5 精度保証部  
なし
- 6 会 計 部
- 1) 平成30年度正会員費 6名30,000円、入会金 6名分6,000円、合計36,000円の入金があった。
  - 2) 日臨技より生涯教育推進研修会助成金 47,500円×1研修会、50,000円×1研修会、合計97,500円の入金があった。
  - 3) 株式会社ズケンより精度管理試料代 埼臨技立替分742,904円の入金があった。
  - 4) 石井印刷へ、埼臨技だより第474号印刷代 90,202円を支払った。
  - 5) 平成30年度分会費5,000円を退会会員に振込んだ。
- 7 精度管理委員会  
なし
- 8 一都八県会長会議  
なし
- 9 日臨技関甲信支部  
なし
- 10 日臨技
- 1) 日臨技定款変更(理事数変更)について各都道府県に意見提出が求められ、当会として会長を除く(日臨技理事のため)三役で協議後、日臨技案に概ね承認することを松岡副会長名にて回答した。
  - 2) 日臨技より微生物検査に関するコスト調査依頼があり、当会は猪浦部長、小山事務局長が調査回答書を返送した。
- 11 第46回埼玉県医学検査学会
- 1) 11月16日(金)第13回実行委員会が開催された。
  - 2) 12月 2日(日)第46回埼玉県医学検査学会が開催された。

## 12 第47回埼玉県医学検査学会

- 1) 11月19日(月)第1回実行委員会が開催された。

## Ⅲ. 承認事項

### 1 事務局

- 1) 会員動向(平成30年度分)

平成30年12月 1日現在

会員数 3,041名[平成29年度会員数2,897名]  
(新入会員 264名)

賛助会員 81社[平成29年度 86社]

### 2 事業部

- 1) 平成31年賀詞交歓会および各賞受賞記念祝賀会の要項について

## Ⅳ. 議題

なし

平成30年12月12日、代表理事である神山清志は、役員全員に対して上記理事会の議案書を発した。その結果、当該提案(承認事項)について平成30年12月18日17時00分、電子メールにて理事全員から同意を得て、監事全員より当該提案について異議を述べない旨の報告がなされた。よって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条及び定款第33条第2項の規定により、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

上記のとおり、理事会の決議の省略を行ったので、理事会の決議があったものとみなされた事項を明確にするため、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条及び同法施行規則第15条第4項第1号に基づき、常務理事である濱本隆明は本議事録を作成し、定款第34条の定めにより代表理事及び監事が記名押印する。

平成30年12月18日

## あ と が き

平成最後の年明けを迎えました。皆様にとって、平成とはどのような歳月でしたでしょうか？

私にとっては、激動の歳月でした。職場にも慣れたところで、パソコンが急激に普及し、オーダーリングで検査結果を送るようになりました。職場も家庭もIT化が導入されました。そして、平成15年に個人情報保護法が制定されると、職場も社会も旧体制から新体制へと変わっていくのがわかりました。あと、度重なる自然災害には心を痛めました。

新元号となる5月からどのようになるのか楽しみです。世の中がどんなに変わっても、対応していける力を持ち続けたいと願う今日この頃です。今年もよろしくお願ひ致します。

(小島 記)

